

『地域研究のためのフィールド活用型現地語教育』

平成 23 年度派遣報告書

—ケニア・ナイロビ大学、スワヒリ語、派遣期間 (H23. 8. 2 - H23. 12. 1) —

平成 23 年度入学
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
5 年一貫制博士課程 1 回生
稲角 暢

自身の研究テーマについて

私の研究の目的は、家畜の群れの日帰り放牧の成立機構を明らかにし、牧畜社会の現代的变化にともなう、人と家畜の関係がどのように変質しているのかを探ることである。

牧畜民ポコット人は、ケニア共和国のリフトバレー州を中心として生活している民族であるが、日本人研究者による先行研究はほとんどない。ケニアの Baringo 湖の東北に位置する町 Tangelbei 周辺のポコット人は、ウシ、ヤギ、ヒツジ、ラクダ、そしてロバという、五種の家畜による牧畜を長年生業としてきた。しかし近年、行政による政策や交通網の発達などから、農業（農産物、農業技術など）や商業、学校教育などが、調査地域に徐々に流入し始めている。それに伴い、町周辺への定住化、労働内容や食生活の変化、経済活動の変質、子供たちの学びの場と学びの内容の変容など、人々のライフスタイルもまた徐々に変化を促されてきていた。

私の研究では、今なお牧畜を主な生業として保持しているポコット人の生業活動に焦点を当てて、人々の経験がどのように変化しているのかを捉える。そして、人々の変化に呼応して、家畜にも生じている変化を探り、人と家畜の相互関係がどのように変容しているのかを考察する。とりわけ日帰り放牧をはじめとする、人と家畜のインタラクション（相互行為）に着目することで、人と家畜の相互関係の変化を明らかにできると考えている。



【調査地域の景観】



【ロバを使って水汲みをする少女】

研修言語の概要

スワヒリ語は、ケニアだけでなく、タンザニアやウガンダでも公用語とされ、東アフリカ地域に広く分布する言語である。40を超える民族を有するケニアにおいては、スワヒリ語が民族間のコミュニケーション手段のひとつとなっている。英語やアラビア語から借用した単語が多く、ケニアにおいては英語と混淆して使用されることすらある。名詞クラスの類別や、接辞の多用、コンコードなどが、この言語の大きな特徴となっている。

語学研修の内容について

派遣期間の前半は、ナイロビ大学から紹介された語学学校へ通ってスワヒリ語の基本文法を一通り網羅した。そして、派遣期間の後半は、調査地域に滞在して、ポコット人とのあいだでスワヒリ語会話の実践的な練習を行い、また、ポコット語の挨拶や基本単語の収集に努めた。

派遣期間の前半は、ナイロビ市内の ACK (Anglican Churches of Kenya) 語学学校に通い、校舎の一角の教室でマンツーマンでのスワヒリ語の授業を受けた。先生の持参した教科書（文法ノート）に沿って板書が行われ、私は授業ノートをまとめつつ、質疑応答を繰り返し行った。4時間の授業を週に5日間行い、先生の教科書を2ヶ月で網羅したところで語学学校での研修を終えた。授業はケニアの公用語でもある英語を用いて行われ、コミュニケーションに問題はなかった。日本から持参した日本語-スワヒリ語辞書の他、ナイロビで購入した英語-スワヒリ語辞書を用いた。

派遣期間の後半の2ヶ月は、調査地域 Tangulbei 周辺に滞在し、英語が話せる調査助手を雇って人々との会話を補助してもらいつつ、調査に関するスワヒリ語とポコット語の語彙を集めた。ナイロビで習ったスワヒリ語の語彙と、調査地域周辺で話されているスワヒリ語の語彙とは、しばしば異なっており、驚かされることもあった。ポコット語の教科書や辞書は入手できず、ポコット語の勉強は主に調査助手の知識に頼って行った。



【語学学校での授業風景】



【植物の説明をする調査助手】

研修期間中に印象に残った体験や経験

語学学校の先生や調査助手との会話や授業は、主に英語で行われたために、まずは英会話に対する免疫が付き、習っている事柄に関するジョークや揶揄を交えつつ行った語学研修は、私と先生または調査助手の双方にとって楽しいものとなった。それゆえか、活性化した質疑応答はしばし長時間に及び、一つの文法事項に関して1時間以上話し合うことすら度々あった。一つの語彙や表現をもとにして、話はケニアの歴史や日本の話に飛び火し、お互いの文化を笑い合ったりもした。研修を通じてこうした関係が築けたことに、私はまず感謝したい。

調査地域では、調査助手の弟家族の敷地に寄宿させてもらった。幼い子供たちとの会話では、スワヒリ語が通じず、当初は日本語とポコット語をお互いに喋りながら、「身体言語」をもちいて意図を探り合うというものであった。笑い、跳ね、叩き、怒り、拗ね、寝転び、撫で、そして抱きしめあう「身体言語」は、最も美しい「言語」に思えたものであった。



【私が遊んだ子どもたち】

目標の達成度や反省点について

スワヒリ語の文法事項に関しては、基本を一通り網羅し、また調査地域特有の表現や語彙に関する収集も行えた。地域研究を念頭においたフィールドワークを行うための準備としての、最初の一步は踏み出せたように思う。

一方で、語学研修を日本国内でなく海外で行う理由の一つに、研修言語の話者たちの文化を体当たりで経験することがあるならば、今回の研修期間中のナイロビでの生活では、いくらかの障害が生じた。すなわち、ケニアとソマリアの政治的な関係が悪化したために、テロや誘拐に対する緊張が高まり、ナイロビにおいて人々の生活に触れる機会は狭めざるをえなかった。改めてナイロビを訪れる際には、調査国を理解する上でも、ぜひとも、もっと街へ出かけていきたいものである。